日本行動計量学会会報 第58号 1993年3月15日

行動計量学会報

日本行動計量学会（理事長 水野欽司）
事務局：〒152 目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学工学部繁桝研究室

行動計量学と現場主義

岩坪秀一

今年の2月中旬，朝日新聞の論壇に<幻と化した国連大学の「夢」>という投稿が載った．投稿者は，かつて国連大学広報部長を勤めた英国人ジョン・ベルチャー氏である．国連大学は，世界の重要問題を研究し，とりわけ発展途上国の恵まれない人々に資するべく設立された．渋谷の一等地に14階という素晴らしいビルも建った．しかし，人件費などに膨大な費用をつぎ込んでいるわりには，さっぱり研究成果が上がっていないという訴えであった．ビルの建設費や大学の運営費などを，途上国の教育機関設立に当てたり，青年協力隊を派遣したりする費用にまわした方が，はるかに有効な金の使い道であることは，ベルチャー氏ならずとも誰だって考えつくことだ．この豊かな日本で，豪華な研究室に閉じこもって，たとえば飢餓に苦しむ人々を救う何の研究ができるというのか．

こんなおかしなことが平気でまかりとおっているのだが，このことは国連大学に限ったことではない．現実を忘れ，現実から遊離してしまっている状況は，現在の日本の致るところで見られる．日本の将来を考えると誠に寒心に堪えないのだが，ひるがえってわれわれの行動計量学会は大丈夫だろうか．

私たちは，研究者として現実(リアリティ)と真剣に取り組むという姿勢を段々失いつつあるのではなかろうか．新しい研究分野の最前線に飛び込んでいくことは辛いことである．ここでは，まだデータすら取り出せない．いや，どんなデータを取り出したらよいのかさえ分らないのである．ドロドロとした苦労のみ多い現場がここにある．しかし，かつて新しい学問を切り開いてきた人々は，そのおどろおどろしい現場に飛び込んでいって，そこで苦闘してきた．その成果を後世の研究者が享受しているのである．

豊かになることは，人間にとって必ずしもいいことではない．私たちは本来なまけものなのだ．楽な身分になるとチャレンジ精神や冒険心といったものが失われてしまう．豊かさということをわれわれの学会でいえば，たとえば多変量解析や共分散構造分析といった既存の精緻な方法論であり，マックなどの高性能パソコンやコンピュータであり，舶来のＳＡＳなどに代表されるコンピュータのライブラリー等々である．こうしたスマートな出来上がった世界の中だけで生きていく方がずっと楽である．しかも世間は，尊敬もしてくれるし，教えを乞うてもくる．「高級パソコンゲームの世界」で楽しく遊んでいて飯が食えるのだから，こんないいことはない．

しかし，ここでしばし現場に目を向けてみようではないか．解決すべき研究課題が何と多いことか．内外の政治，経済，社会，教育，環境等々人間の絡んだ解明すべき研究対象は無限にある．そしてこれらの分野にこそ新しい方法を生み出す絶好のチャンスが豊富にあるはずだ．

人間行動の解明を目指す行動計量学会の会員こそ，とりわけ若い会員こそ，自らの可能性を狭い世界に封じ込めることなく，もっと現場の世界に積極的に飛び込んでいくだけの勇気を持つべきではないだろうか．

(いわつぼ しゅういち，日本行動計量学会理事，運営委員長)

第２０回大会報告

実行委員長 坂元昂

第２０回日本行動計量学会大会は，昨年９月２１日から２３日の３日間にわたり，東京工業大学工学部において開催されました．

第２０回という節目にあたる開催であり，前日９月２０日にはそれを記念する講演会が日経ホールにて行なわれました．例年，８月後半に開かれることの多い本大会ですが，今回は冷房のある会場の確保の見通しがたたず，やや遅い開催となりました．夏休みがすぎており，皆様の参加には若干不都合であったかと思われますが，気候的には恵まれ，充実した研究発表が３日間続きました．

今大会では，二つのシンポジウムを企画しました．その一つは，最近何かと話題となり，また我々大学人としても真剣に取り組むべきテーマでもあります「大学評価と大学改革」[企画：矢野眞和氏（東京工業大学）・司会：坂元昂（東京工業大学)]です．このシンポジウムでは金子元久（広島大学），佐藤禎一（文部省），椎塚久雄（工学院大学）の各氏にそれぞれのお立場から講演していただき，牟田博光氏（東京工業大学）には討論者をお願いいたしました．

もう一つのシンポジウムでは熊田禎宣氏（東京工業大学）企画，海野道郎氏（東北大学）司会による「パラダイムが変わりつつある計画行政の効果をどう計測するか」をテーマといたしました．講演者には，岸本周平氏（大蔵省），真鍋友一氏（建設省），宮本武史氏（通産省），岩田規久男氏（上智大学），森田恒幸氏（国立環境研究所）の方々をお願いいたしました．二つのシンポジウムとも午前９時半の開演だったこともあり，最初の出足は遅かったようですが，結局は数多くの方々に参加していただきなかなかの盛況でした．

一方，個人の研究発表は一般セッションとして，**i)** 統計 **(1)**，**ii)** 生活・教育，**iii)** 心理，**iv)** 社会，**v)** 統計 **(2)** の６セッションが開催され，例年と同じく行動計量学会会員諸氏の幅広い研究活動を印象づけるものとなりました．

今回の大会の特徴の一つは，特別セッションの多彩さであろうかと思われます．会員諸氏からテーマを募り，特別セッションとして **i)** あいまいな思考・判断とファジイ（企画：中村），**ii)** 多元データの分析モデル（企画：村上），**iii)** 交通行動の解明１―交通現象分析―（企画：屋井），**iv)** 行動計量学の普及と教育（企画：市川），**v)** ファジイデータ解析（企画：田中），**vi)** コンピュータを用いた授業展開とその評価（企画：池田），**vii)** 交通行動の解明２―交通行動の調査分析技法―（企画：屋井），**viii)** 家族をめぐる意識と行動（企画：肥田野），**ix)** 緩和医学と行動計量学の接点（企画：丸山），**x)** 教育データの構造分析（企画：赤堀）の１０セッションが開催され，一般セッションとあわせて８６件の発表が行なわれました．

総会は第２日の９月２２日に行なわれ，会計報告などの通常業務関連報告と同時に，

学会功績賞が池田央（立教大学），学会優秀賞が吉野諒三（統数研）の両氏に与えられました．両氏の今後の一層のご活躍をお祈り申し上げます．

同日夕刻からは，懇親会が東京工業大学百周年記念館「角笛」で行なわれ，東工大の藤井理学部長，木村工学部長の歓迎の挨拶に始まり，立食形式の楽しく和やかなパーティとなりました．

今回の大会への参加者数は正会員１７６名，準会員３名，非会員５２名，賛助会員２名の計２３３名でした．

実行委員会

本大会のプログラムの企画立案には，東京工業大学の以下の教官に実行委員をお願いしご協力をいただきました．

熊田禎宣（プログラム委員長），繁桝算男（事務局長），青木義次，赤堀侃司，市川伸一，今田高俊，圓川隆夫，菊池章夫，今野浩，往住章文，牟田博光，原科幸彦，屋井鉄雄，矢野眞和，前迫孝憲，松田稔樹及び柴山直の各氏です．また事務局には横山明子（帝京大学），柳充子（繁桝研究室）のお手伝いをいただきました．

大会運営および広告収入

キャノン販売，ＳＰＳＳ，みくに出版，数理システム，博報堂，サーベイリサーチセンター，ＳＡＳインスティチュートジャパン，日本能率協会，ライテック，エックス都市研究所，三菱総合研究所，計量計画研究所，企画開発，構造計画研究所，社会システム研究所，現代数学社，朝倉書店および東京大学出版会からは広告をいただきました．また，数理システム，キャノン販売，友隣社からは当日大会会場にて展示をお願いいたしました．特にこの点に関して屋井鉄雄（東工大），繁桝算男（東工大），柳井晴夫（大学入試センター）の御三方には大変お世話になりました．ここに厚くお礼申し上げます．

会議記録

平成4年度第4回理事会

日時：平成4年9月21日 午前11時～12時
場所：東京工業大学百年記念館第一会議室
出席者：水野（理事長），飽戸，浅野，市川，岩坪，海野，江川，岡太，高木，田栗，馬場，林，肥田野，村上，脇本，繁桝（事務局）

1. 前回議事録の承認
2. 行動計量学会総会について
3. 第21回大会開催校について：第21回大会開催を大阪大学人間科学部にお願いすることとした．
4. 各種委員会報告
5. 会員の移動について
6. その他

平成4年度第2回運営委員会

日時：平成4年6月6日（土）
場所：（株）マーケッティング・サービス3階会議室

出席者：石塚，岩坪，馬場，柳原（五十音順）

1. 20 周年記念行事の運営資金，講演会会場，講演会の内容について

平成 4 年度第 3 回運営委員会

日時：平成 4 年 7 月 1 日（水）
場所：大学入試センター 1 階会議室
出席者：石塚，岩坪，柏木，杉戸，星，柳原（五十音順），繁桝（事務局），水野（オブザーバー）

1. 20 周年記念事業の会場について
2. 20 周年記念事業のプログラム案について具体的に検討した
3. 記念事業の運営資金の調達について
4. 記念事業に向けての今後の具体的作業について

平成 4 年度第 4 回運営委員会

日時：平成 4 年 9 月 22 日（火）
場所：東京工業大学百年記念館会議室
出席者：岩坪，海野，杉戸，杉山，辻本，馬場，柳原，米田（五十音順），繁桝（事務局）

1. 20 周年記念事業の資金集めの一環として，日本経済新聞社と共催で多変量データ解析関係の講習会を計画することになり，運営委員長と柳原委員とで具体的に企画することとした
2. 創立 20 周年記念講演会の講演内容は，和文誌「行動計量学」に掲載すべく田栗和文誌編集幹事長と交渉することとした．
3. 今後の行動計量シンポジウムの計画について

協賛するシンポジウム等のお知らせ

名称：第 12 回シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス
開催期日：平成 5 年 6 月 23 日 (水)，24 日 (木)
会場：明治大学 (東京お茶の水)
主催：日本シミュレーション学会
問い合せ先：〒 115 渋谷区千駄ケ谷 5-10-11 (財) 日本科学技術連盟内日本シミュレーション学会事務局 (担当 梅北)
電話：(03)5379-1236

会員による著書

L. Schrage(新村秀一・高森寛訳)：実践数理計画法，朝倉書店 (1992).
朝野熙彦：魅力工学，海文堂出版 (1992).

会報担当者より

会員の声，会員による著書，会報への御意見等は，下記宛てにお願いいたします．

〒 114 北区西ケ原 4-51-21
東京外国語大学外国語学部
市川雅教